1 単 元 モンゴルの襲来と日本

2 目 標

- 鎌倉幕府の滅亡から戦国大名の登場までの武家社会の展開,経済の発達と社会の変化,室町文化に対する関心を高め、意 欲的に学習しようとする。 (社会的事象への関心・意欲・熊度)
- モンゴルの襲来や日明貿易が日本の社会に与えた影響について,多面的・多角的に考察することができる。

(社会的な思考・判断・表現)

○ モンゴル軍の特徴や幕府軍の戦いに関する文献資料や絵画資料を活用することができる。

(資料活用の技能)

○ モンゴルの襲来から鎌倉幕府の滅亡までの展開を理解することができる。

(知識・理解)

3 生徒の実態と指導に当たって

〈実態調査〉 (平成*年		*月*日 第	1学年*組	*名 実施)
	項目	十分でき	概ねでき	できてい
		ている。	ている。	ない。
既	雨温図や写真資料を活用しながら、世界各地の人々の生活と日本の生活との	*名	*名	* 名
	違いを適切にノートにまとめることができる。			
習	地理的事象を多面的・多角的に考察し、表現することができる。	*名	*名	*名
	調べたことをもとに本当はどうだったのかを考察し、検証したことを表現で	*名	*名	*名
未	きる。			
習	歴史上の問題場面について、残された課題を解決するにはどのようなことが	*名	*名	*名
	考えられるか論述できる。			

本学級では、1学期の単元「世界各地の人々の生活と環境」において、個人調べからグループ発表という学習形態をとった。 その中で、資料をもとに、説得力のある発表の仕方を身に付けた。さらに、それらの学習を通して、資料を活用しながら自分 なりの方法でノートにまとめていく力を身に付けた。しかし、発表の内容を分析してみると、課題追究が不十分であったり、 自分と異なる考えについての反論ができるような準備が整わなかったりなど、相手を十分理解させるような内容には至ってい ないことがわかった。

そこで本単元では,適切な課題を設けて行う学習の充実と,生徒の主体的な学習を促すような展開を工夫することで,「資料 の選択や活用の技能を高め、根拠をはっきりさせて自分の考えを論述する力」の育成をねらう。

指導に当たっては第一次で,元寇や鎌倉幕府滅亡に関する基礎的・基本的な知識・理解の定着を図ることで,興味・関心を 高め,本単元の目指す姿をつかんで学習を進められるようにする。その際、「暴風雨にあって大損害を受け,引き上げました。」 という教科書の記述に着目し、「暴風雨がなければ本当に幕府軍は敗れたのか。」、「暴風雨がなくても、幕府軍は元軍に勝てた のではないか。」という課題を投げかけ、生徒の考えを揺さぶりたい。また、元寇後まもなく幕府が滅んだが、「元寇がなくても 幕府は滅んだのではないか。」という課題で既習内容をもう一度振り返る活動を設定する。以上、二つの課題設定により「この 問題について、ぜひ調べ、考えたい。」という思いを高める。

第二次では、グループごとに自分たちで決めたテーマに対する意見を出し合い、提案内容や根拠、予想される質問や反論に ついてまとめるようにする。この場面において「協同タイム」を取り入れ,友達と考えを交流させながら,より説得力のある 論述へと高めていけるようにする。途中,グループのメンバーを代えたジグゾー型学習による交流をすることで,より効果的 な「協同タイム」となるよう支援したい。発表場面では、「なぜ」「どうして」そう言えるのかを根拠をはっきりさせて話すよう に助言する。反論についても、資料に基づくものであるよう念を押し、思い込みや理由のない反対によるものとならないよう 支援することで発表の質を高めていきたい。さらに、今後の社会科学習方法の確立をねらいたい。

4 指導計画と評価規準(3時間取り扱い)

第一次 単元全体を見通した学習計画を立てる。 -----1時間 モンゴルの襲来が日本に与えた影響や鎌倉幕府滅亡までの経緯について、根拠をはっきりさせて自分の考えを発表 しよう。

第二次 テーマを決め、調べたことを発表し合い、自分の考えをまとめ発表する。

時	学習活動	評価規準	
	グループごとにテーマを決める。	【知・理】モンゴルの襲来から鎌倉幕府の滅亡までの展開を理	
	・必要な資料を収集・選択し発表資料を作成する。	解している。 (ノート)	
1	・発表内容と予想される質問や反論にどう対処する	【関・意・態】モンゴルの襲来から鎌倉幕府の滅亡までの経緯	
	か準備する。	を意欲的に調べている。 (発表・ノート)	
2	・グループ内で発表し合い、発表資料や発内容を検	【資料活用】モンゴルの襲来が武家社会に与えた影響について	
本	討し、強化する。	資料を活用してまとめている。 (発表資料)	
時	根拠をはっきりさせて発表する。	【思・判】モンゴルの襲来から鎌倉幕府の滅亡までの展開を多	
		面的・多角的に考察している。 (発表・ノート)	

5 本時の学習

- (1) 目標 資料をもとに、根拠をはっきりさせて自分の考えを発表することができる。 (2) 本時における「協同タイム」※展開内の太字は「協同タイム」にかかわる手立てを表す。 自分の発表内容に説得力をもたせるにはどのようにすれよいか、という課題を協同して解決していくことをねらいとする。 初めに違う考え同士でグループを組み、その後同じ考えの者同士でグループを組み直し、内容を検討し合う。そこで互いに

アドバイスや質問・反論をもらうことで、提案内容を強化できるようにする。 (3)展開 学習活動及び内容 ☆個への支援 配 指導上の留意点 ◎評価 時 根拠が弱いと、説得力のない発表になってしまう。 3 学習課題をつかむ。 と、また、資料による根拠のないものは説として認められないことを再度押さえる。 ・学習課題を全体で確認することで、発表に説得力をも モンゴルの襲来(元寇)の失敗やその 後の幕府滅亡への影響について、自分の 発表内容に説得力をもたせるように、根 たせるにはどうしたらよいか考えたくなる思いを高め 拠をはっきりさせながら自分の考えを発 るようにする。 説得力をもたせるということは,根拠を明確にし相手 の質問や反論に答えられる提案内容にすることだとい ア) 元寇が失敗したのは暴風雨のせい なのか。 う,本時の学習の目的をはっきりさせ,意欲を高め イ)鎌倉幕府の滅亡は、元寇が原因な 15 前時までに個人調べをしているので, それを確認する 2 考えの異なる者同士のグループで検 時間をとる。 ・効果的に協同タイムが進むよう、意図的にグループを 討し合う。 協同タイム 編成する。 司会進行役を立て、各グループともEまたはFが行うよ うにする。 В A·B) 暴風雨の影響で元軍は Α 敗れた。 協同タイムでは,タイマーを使用することで, 焦点化させ,集中力をもって協同タイムの時間を確保 С D C·D) 暴風雨がなくても元軍 は敗れた。 できるようにする。 ☆グループでの学習にためらうことが予想される生徒に は、教師が一緒にグループに入り、自分の考えをグル E) 幕府の滅亡は元寇が原因 E(F) ープに伝えられるよう支援する。 F) 元寇がなくても幕府は滅 ・アドバイスを出す側には、友達の意見の根拠や資料の 亡した。 ①A の提案を, B~Fが聞く。 ②提案に対して, B~Fが質問・反論をす 読み取りが適切なものであるか丁寧に確認するよう助 : 言する。 ③B~Fについても同様に行う。 5 同じ考えの者同士でグループになり 発表資料や発表内容を強化し,発表 の準備をする。 ・質問や反論への対応はできている か。 ・どの資料のどの部分に何と書いてあ るのか。 ・同じ資料を別な視点から読み取とる ことはできないか。 ☆質問・反論をなかなか出せないことが予想される生徒 グループごとに全体で発表する。 ・発表では,「どの資料」の「どの部 には、教科書の資料を中心 に出すよう声をかける。 質問は黄色, 反論は青色の付箋に書き込むこととす 分」が根拠になっているかをはっき り示す。 付箋を渡す際には、どの部分についての質問・反論な のかを話すよう声をかける。 前時までに付箋1枚分は書いて用意しておくこととす ・各グループとも2つ以上の資料を使 って発表する。 ・出された質問・反論に答えている部 分は聞き手にわかるように発表す 聞いてもらう側は、付箋を自分のノートに貼ってお る。その際も、資料による根拠付け をしっかりする。 ・各グループから出た質問・反論の付箋を持ち寄り、解 ・協同タイムでの話合いが活かされて 決できそうなものを選択し,解決する。 いるか相互評価する。 発表の中で, 出された質問・反論のうち少なくともど ちらか1つには答えるものとする。 ◎自分と違う考えを考慮しながら、提案の根拠や予想さ 5 本時の学習を振り返る。 れる質問, 反論に対して資料をもとに根拠を明確にし て提案内容をまとめ、発表している。 (社会的な思考・判断・表現/ノートの記述・発表) 【「努力を要する」状況(C)の生徒への手立て】 資料を基に根拠をはっきりさせて 考えをまとめると、発表内容に説得 をもたせるができることがわかった 根拠や、予想される質問・反論が明確にならない場合 には, 友達からどんなアドバイスをもらったのか確か

6 次時の学習内容を知る。

2

【「十分満足できる」状況(A)】 ・友達からもらったアドバイスを取り入れ、根拠となる 資料や質問・反論に対する答えが、2つ以上明確にな

め,アドバイスを取り入れるように促す。

- っていることがわかる。 ・本時の振り返りでは、本時でねらいとした「資料」、 「根拠」という言葉を押さえた内容になるように、これらの言葉を黒板に提示するようにする。
- ・生徒がノートに記した振り返りの言葉を机間指導で評価しながら、グッドモデルとなる意見を発表させる。
- ・次時は、鎌倉幕府滅亡後の世の中の動きについて調べ、考えていくことを告げ、意欲をつなげる。